

令和5年度（平塚ろう学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上（法令の遵守、服務規律の徹底）	<ul style="list-style-type: none"> ・教育公務員としての自覚向上 ・教職員に求められる高い倫理観の保持・向上 ・円滑なコミュニケーションの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の倫理に関する指針を再確認し、啓発資料等を活用して定期的に自己チェックを行って、高い倫理観を持って行動を律することに取り組んだ。 ・情報共有ツールの活用をさらに推進し、職員間のコミュニケーションを円滑にすることができた。 ・若年層や臨任、会計年度職員との面談を実施し、困り感や課題を共有し、支えあう職場づくりを進めた。
個人情報等の管理、セキュリティ対策	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関する事故の未然防止徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修を実施し、個人情報の取り扱いに関するルールの徹底、個人情報管理の徹底を図り、個人情報持ち出し許可や掲載許可のルールを再検討した。
幼児・児童・生徒へのわいせつ・セクハラ行為の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・人権侵害行為の未然防止 ・人権意識を持った適切な指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・室内を見通し易い準備室の整備を行った。 ・全体研修を実施し、人権意識を高めることができた。 ・「さん」付け呼称を徹底し、障害特性理解のための自己研鑽研修を紹介した。
会計事務等の適正執行	<ul style="list-style-type: none"> ・公費及び私費会計の適正な執行・管理 ・備品等の適正な管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・私費会計基準の周知徹底のため説明会を実施した。また、「私費会計の手引き」を改訂できた。 ・私費会計基準に基づく適正執行、ダブルチェックによる適正な管理、処理を行い、事故無く業務遂行できた。
体罰、不適切な指導の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児・児童・生徒の実態をおさえた、体罰によらない適切な指導の徹底 ・幼児・児童・生徒の人権を尊重した指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を推進し、幼児・児童・生徒の理解と専門性を高め、指導力の向上を組織的に図ることができた。 ・60%の職員が授業や指導場面を公開したり、授業を見合う期間を設定して他学部を知る機会を持ったりして、授業力向上に寄与することができた。 ・生徒指導において、複数で対応し丁寧な指導に心掛けた。
職場のハラスメントの防止	<ul style="list-style-type: none"> ・パワハラ、セクハラ、マタハラをはじめとするハラスメントの未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職による個別面談、チーム内での情報共有、不祥事防止会議での報告等により未然防止ができた。 ・同僚性を醸成し、ハラスメントのない、気持ちよく働ける職場環境づくりを進めることができた。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	<ul style="list-style-type: none"> ・確実な業務遂行と点検体制の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績処理や進路業務において、複数チェックによる確実な取扱いを徹底し、不祥事防止会議で確認した。 ・入学者選抜業務について、職員啓発資料を活用してチェックし、業務マニュアルを見直して、ミスのない業務遂行につなげることができた。
業務執行体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の連携を強化し、円滑な業務執行体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Teamsを活用して情報共有、チェック機能を徹底した。 ・ヒヤリハット事例を学校全体で共有し、注意喚起を行い、繰返しの事故を防止した。

○ 令和5年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和6年度に取り組むべき課題
(学校長意見)

指導組織や分掌組織を軸にして、チームで不祥事ゼロプログラムに取り組み、合わせて職員一人ひとりが教育公務員として高い倫理観を持つことを意識した。また、8つの主要課題を取上げて不祥事防止会議・研修会を9回実施した。

次年度も、教職員が不祥事防止に対して自分事として取り組めるように、ヒヤリハット事例や工夫した成功事例を参考に協議する機会を設ける。そして、効果的・効率的に課題や成果を不祥事防止会議で共有して不祥事ゼロを継続していきたい。

また、幼児・児童・生徒への人権を尊重した指導や教職員の同僚性の醸成に引き続き努めていく。